

7月6日(日)に令和7年度「1級土木施工管理技士 第1次検定試験」が実施されました。問題は、過去問ベースの出題傾向で大きな変わりはありませんでした。全体的な難易度は例年通りの難易度だと思います。応用能力問題は、過去に出題された問題と似ているものが多く、例年と同様の難易度と思います。

合格するためには、過去問8年分の意味を理解して徹底的に解き続ける必要があると感じた試験でした。

午前の部

- No 1 ~No 5 工学基礎知識

難易度：やや難しい

- 土質工学2問（土の構成、コンシステンシー限界）

土の構成は昨年の問題や2級土木施工管理技士の試験問題を復習しておけば解けた問題でした。コンシステンシー限界は、土木一般の土質試験である「コンシステンシー試験」を学習しておけば解ける問題でした。

- 構造力学2問（曲げモーメント図、引張応力）

曲げモーメントの問題は昨年と同じでしたが、作図の仕方をわかつていなければ解けないものでした。作図に関しては、今年の2級土木施工管理技士 第一次検定 前期で出題されていたため、2級土木の問題も併せて復習しておく必要がありました。

引張応力の問題は初出題であり、解いたことの無い方にとっては難しい問題でした。

- 水理学1問（マニングの公式）

マニングの公式は令和6年 前期 2級土木施工管理技士 1次検定で出題された内容でしたが、公式の暗記が非常に難しく、円形の面積と長さの計算をしなければならないため、難しい問題でした。

- No 6 ~No 20 一般土木

難易度：例年通り

出題内容は、土工5問、コンクリート工6問、基礎工4問と例年と同じでした。

No 6 の原位置試験は、令和2年以来の出題であり、各々の試験の特徴を覚えていないと解けない問題でした。また、**No 9 の土量の変化率**も令和2年以来の出題でした。

No 18 の鋼管杭の現場溶接の施工の問題は平成28年以来の問題であり、深くまで過去問を勉強しておかなければ解けない問題でした。

コンクリート工は通年通りの問題が多かったので、点数を稼げるものでした。

- ・ No21~No54 専門土木

難易度：例年通り

過去問と同じ内容の問題が例年通り散見されたため、解きやすい問題を選択すれば点数を稼げた内容でした。専門土木の中にも、一般土木の土工やコンクリート工に類似する問題があるため、見極めることが重要です。また、問題文で「**適当なもの**」なのか「**適当でないもの**」なのかをしっかりと読む必要があります。

私が選ぶとしたら、

No22 鋼道路橋の溶接施工上の留意事項

No25 コンクリート構造物のひび割れ

No26 河川堤防の盛土施工

No31 急傾斜地崩壊防止工

No32 道路のアスファルト舗装における路床の施工

No39 ダムコンクリートの打込み

No41 トンネルの山岳工法における覆工コンクリートの施工

No46 鉄道のコンクリート路盤の施工

No51 上水道の配水管の埋設位置及び深さ

No52 下水道管渠の更生工法

の問題でした。

- ・ No55~No66 法規

難易度：例年通り

火薬類取締法が2年連続で出題されず、建設業法が昨年同様2問出題されました。

出題内容は、労働基準法2問、労働安全衛生法2問、建設業法2問、道路法1問、河川法1問、建築基準法1問、騒音・振動規制法2問、港則法1問でした。

午後の部

- ・ No 1 ~No 4 共通工学

難易度：例年通り

TSを用いて行う測量1問、公共工事標準請負契約約款1問、逆T型擁壁の配筋図1問（2年ぶりの出題）、建設機械の最近の動向1問（10年ぶりの出題）でした。

No 1 ~No 3 は過去問を復習しておけば、しっかりと点数が取れたと思いますが No 4 は近年見ない問題だったので難しい問題でした。

- ・ No 5 ~No20 施工管理

難易度：例年通り

施工計画1問、工程管理1問、安全管理7問、品質管理3問、環境保全等4問。この出題内

容は令和3年から令和6年までと変わらないものでした。

数字を暗記しなければならない問題はNo12のみで近年に比べて少なかったです。

No10型枠支保工の問題は4年ぶりでした。

No15の道路舗装の品質管理の組合せは10年ぶりの出題でやや難しい問題でした。

No19建設発生土の有効利用の問題は近年見ない問題でしたが誤っている文章(2)のみ過去問から出題された部分でしたので、しっかりと勉強されていた方は解けたと思います。

No20のコンクリート又はコンクリート工作物の解体工事は近年見ない問題でしたので、難しい問題でした。

- No21~No35 応用能力

難易度：やや難しい

施工計画4問、工程管理3問、安全管理4問、品質管理4問。

この出題内容は令和3年から令和6年までと変わらないものでした。

全体的に過去問と文言を変えて出題されている問題が散見されたため、過去問対策をした人を惑わすような問題が散見されました。

No22 ③ ガス溶接作業の圧縮アセチレンガスの貯蔵は平成30年の問題以来であったため、近年の過去問だけでは解けない問題でした。

No25のネットワーク式工程表のみに絞り込んだ問題は初出題であり、近年見ない問題文があったため非常に難しい問題でした。